学校のお宝

〈秋田県立秋田高等学校〉

土井晩翠筆　校歌

明治六年、秋田市日新学校内に洋学科が増設され、洋学校と称された。これが本校の濫觴である。今日まで卒業生は三万人以上、元国際連合事務次長の明石康、元東京大学総長の佐々木毅、元プロ野球選手の石井浩郎など、多彩な人材を世に輩出している。

校歌が正式に制定されたのは、旧制秋田中学校時代、創立から四十九年後の大正十一年。作曲は、童謡「どんぐりころころ」で知られる札幌市出身の作曲家梁田貞（1885～1959）。作詞は、代表作「荒城の月」で世に名高い仙台市出身の詩人土井晩翠（1871～1952）である。

秋田高校のキャリア教育のテーマ「わが生わが世の天職いかに」、「おのれを修めて世のためつくす」――これは、校歌二番、四番の一節を抜粋したものである。在校生にはこのテーマが誇りをもって受け入れられている。卒業生にも、「社会貢献」、「自主自律」を歌ったこの一節は人気が高い。

多感な青春期に、繰り返し歌った校歌は、座右の銘のごとく人生の指針となる。青春期のみならず生涯を通じて、「わが生わが世の天職」を自らに問い質し、「おのれを修めて世のためつくす」気概と使命を、折りに触れ自覚する卒業生は少なくない。それ故、校歌に惹かれるのだ。自律、利他こそ己をいかすというこの高尚な理念は、本校の不変の教育目標「品性の陶冶」で象徴的に表されている。時代を超え、いつの時代にも脈々と受け継がれるこの「校歌の精神」は、無形の宝であり続けるのである。

（文責　副校長　今井智幸
（平成27年度まで勤務））

こちらのコーナーでは，貴重な品物，保存指定の建物など，学校で受け継がれている価値ある一品を募集しています。学校自慢の一品，あなたの「学校のお宝」を是非ご紹介下さい。ご連絡は，chuto@mext.go.jp まで。